

福田徳三の生存権論—憲法学の立場から

第 13 回 福田徳三研究会レジュメ 2013.7.27

清野 幾久子(明治大学)

I 福田徳三関係で書いた論文と時期区分

- ①清野幾久子「福田徳三における『生存権論』の受容とその展開」明治大学大学院紀要 21-1(1983)→今回資料として PDF 版 (印字) を配布
- ②清野幾久子「福田徳三の『国体』・『国本』論」札幌法学 2-2(1991)
- ③清野幾久子「福田徳三における国家論としての国体論——生存権と非侵略の国家構想」法律時報 68-11(1996)
- ④清野幾久子「福田徳三の生存権論と『社会王制論』---大正期における L.v.シュタイン『受容』問題」法律論叢 (明治大学) 69-3/4/5(1997)
- ⑤清野幾久子「福祉国家論と生存権論——日本とドイツ」杉原泰雄・清水睦編『憲法の歴史と比較』(日本評論社、1998)
- ⑥清野幾久子「1920 年代の日本・オーストリーにおけるくらしと憲法——福田徳三と L. v. .Stein」吉田・井戸田編『1920 年代の日常とあそびの世界—東京とウイーン』(明治大学文学部、2005)
- ⑦内橋克人・清野幾久子<対談>「福田徳三に学ぶ」『世界』(2013.4)

II 以下、当日配布レジュメにつき略